



美ら島ゴールデンタイム



【かぎやで (かじゃでい) 風節】

唄・三線：喜瀬輝雄 棚原勇 島袋栄一 太鼓：仲間百合子

踊り：吉本スミエ 伊波光子 新垣ひろみ

詞：今日の誇らしやや 読：(きゆぬ ふくらしやや)

詞：何にぎやな譬る 読：(なうに じゃな たてている)

詞：蕾で居る花の 読：(ついでい うる はなぬ)

詞：露行逢たごと 読：(ついでい ちゃた ぐとう)

訳：今日の嬉しいことは何にもたとえることはできない。蕾の花が朝露に出逢い勢い良く開花したような嬉しさだ

【踊りこはでさ節 (四つ竹)】

唄・三線：喜瀬輝雄 棚原勇 島袋栄一 太鼓：仲間百合子

踊り：安富和子 平良チエミ



うちならし ならし ゆついだきはならち
打ち鳴らし鳴らし 四つ竹は鳴らち

きゆやうざうんじてい あしぶうりしゃ
今日や御座出ちて 遊ぶ嬉しや

訳：打ち鳴らし、鳴らし四つ竹を鳴らして、今日は晴れの舞台に出て踊る事のなんと嬉しいことよ。

【空手演舞】

演者：宮城葉月 宮城睦月 宮城名月



【朗読劇～語り継ぐ沖縄戦、渡嘉敷島「強制集団死」から生かされて～】

—「朗読劇」ができるまで—

年々戦争体験者が高齢になるにつれ、「沖縄戦」をどのように語り繋いでいくのかいつも課題となっていた。

OBC平和社会委員会と三バプテスト女性会研修会沖縄実行委員会との会議の中で、「朗読劇」という形であれば直接の体験者ではなくとも語り部となれるのでは、との思いが共有された。金城重明牧師が体験された「渡嘉敷島強制集団死」



を朗読劇にしてはどうかと話し合われたことをきっかけに、金城牧師から許可を得るため2020年1月30日、OBC平和社会委員会と女性会会長と共にご自宅をお訪ねした。趣旨についてご理解頂き、朗読劇のシナリオ作りの参考にと「2011年教区年頭修養会」の為に書かれたご自身の体験が詳細に記されている原稿を手渡して下さった。手渡された原稿用紙の冒頭には次のように記されていた。『本日の年頭修養会において、私は自らの体験した「強制集団死」に基づいて、それがどのように扱われ、考えられてきたか、また教科書問題や、文科省の沖縄戦に関する対応などについて、これまで話した事、今考えている事について自由に述べさせていただきます。今回「平和をつくり出す教会」という、教区年頭修養会のテーマを決められたと言う事は意義深い事だと思います。

「平和をつくり出す」ことは宣教の課題そのものだからであります。』

石原真牧師（与勝教会）を中心にシナリオ作りがスタート。何度も何度も意見を交わし合いながら4月に完成。シナリオの最終確認を頂くため再び金城牧師のご自宅へ伺った。ご本人を前に読み進める中、金城牧師ご自身がご家族に手をかける場面では声にならず沈黙が続いた。整合性等ご確認頂き、「二度と自分が体験したことを繰り返してはいけない。語り継いでほしい。」との金城牧師の言葉に押し出されるように朗読劇の練習が始まった。朗読劇の配役をOBCに連なる牧師、信徒の方々にお願いし練習を重ねた。伝わりにくい文言の訂正や、言葉の抑揚について話し合いながらの練習となった。当初は、平和社会委員会主催合同平和祈禱集会（2020年10月）と三バプテスト女性会研修会の一つのプログラムとして上演を予定していたが、新型コロナウイルスが蔓延する頃と重なり上演の方法を変更せざるを得なくなった。模索する中、DVDに収録をしようかと案が出され、今後も語り継ぐための一助になるのでは、と急遽収録をする方法に切り替えた。2020年9月22日に収録し、金城牧師とご家族の方に収録したDVDをお渡しする事も出来た。同年10月、合同平和祈禱集会の動画を一か月間OBCのホームページにアップしその後、要請に応じてDVDを無料配布し、今現在も様々な機関でDVDが用いられているとお声が寄せられている。（文責：宮城かおり）

原案：金城重明（日本基督教団牧師）

監修：神谷武宏

脚本：石原真／三バプテスト女性会研修会沖縄実行委員会

【朗読劇 配役】

ナレーター	東風平道子（小祿教会員）
本人・少年（金城重明）	渡真利千佳子（胡屋教会員）
本人・現在（金城重明）	東風平巖（小祿教会牧師）
兄（金城重栄）	大見謝美意子（那覇教会員）
日本兵	城倉翼（那覇教会牧師）
教師	柴田かおり（首里教会員）
村長	平良善郎（安慶名教会牧師）
少年	松永あおい（アロン318コミュニティチャーチ教会員）

【朗読劇 音響・協力】

渡久地凜・渡久地真紀子（礼邦教会員）

【朗読劇 動画制作】マミヤプロダクション



（練習風景）

【演奏～さとうきび畑～】

—「演奏」ができるまで—

朗読劇の後に「さとうきび畑」を演奏したいとの構想は当初より予定されていた。2020年2月、編曲と編成を担当する池田美奈子氏（泡瀬教会）、合唱指導を担当する仲松かおり氏（普天間教会）を中心にチームが立ち上がった。そして「さとうきび畑」を演奏する趣旨に賛同頂いたOBCに連なる教会員にお声掛けをし演奏者が集められた。



当初開催予定であった三バプテスト女性会研修会（2021年2月）に向けて、著作権権利者の承諾を得ながら編曲の準備が進められていった。第1回目、演奏者による顔合わせと譜読みが始まるもコロナウイルスが沖縄で急速に広がり始める。緊急事態宣言が何度も発令される時期で練習の目途が立たなくなるうえに、三バプテスト女性会研修会の再三にわたる延期によりもう演奏はできないのではないか、と半ば諦めてかけていた。しかし、朗読劇を収録に切り替えた事で、演奏も収録出来るのでは、と話し合われ2021年9月の収録を目標に限られた時間内で練習を再開。演奏者が一人でもコロナに感染しその日に集まることが出来なければ収録の延期すら不可能な状況の中一人一人の体調が守られるよう祈りながら収録の日を迎えた。

収録当日は再びコロナウイルスの蔓延が警戒される頃であったため、全員マスク着用をして演奏を録音。映像を撮る際はマスクを外し、先に録音した音源を聞きながら声と音を出さず実際に演奏をしているかのように撮影。編集で音源とずれないように映像を合わせる作業をお願いしての収録となった。さとうきび畑を吹き抜ける風をフルートが奏で、その風に揺さぶられる「さとうきび」を三部編成のコーラスが表現。ピアノと弦楽器によって場面が展開していき、独唱と三線が語り部となって沖縄戦を語り継ぐ・・・。

空を米軍機が飛び、新基地建設反対の民意を県民投票で示しても、あざ笑うかのように辺野古の海の埋め立てが止むことはなく海が変わり果てていくさまを見せ続けられている。さらに、宮古・八重山では住民が分断され自衛隊基地機能が強化拡大している。「抑止力」と欺き暴力の根源である基地を押し付けられている沖縄の怒りと憤り、そして心が引き裂かれるような苦しみを「さとうきび畑」を聞きながら共有して頂きたい、と切に願う。（文責：宮城かおり）

【さとうきび畑】 作詞・作曲：寺島尚彦 指揮・編曲：池田美奈子

【出演者】独唱：仲松あかり

ソプラノ：具志堅ナオ子 與儀園子 メゾソプラノ：安里さゆり 松浦千登勢

アルト：太田督子 仲松かおり

ピアノ：照屋恵悟 フルード：川田桜子 三線：米須大輔

第1 ヴァイオリン：池田聖香 第2 ヴァイオリン：三枝祥子 宮城むつみ

ヴィオラ：瑞慶山薫 宮城かおり チェロ：中地涼子 中林弘一

【音響・録音】 ミュージックスペース

【動画制作】 株式会社 エムエルスタジオ

【協力】

★沖縄バプテスト連盟教育部女性会役員会（金城和江 安室正子 城倉しのぶ 伊藝ひとみ）

★三バプテスト女性会研修会沖縄実行委員会

★沖縄バプテスト連盟宣教部 平和社会委員会（神谷武宏 石原真 大浜英樹 宮城かおり）